令和２年度　東国文化自由研究レポート

研究テーマ

古墳を身近に感じる～小泉大塚越3号古墳～

提出日　令和２年８月２４日

伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校

1年　4組　26番

氏名　松本 唯愛

Date　　No.

意外と身近にあった古墳！

なんとびっくり！私の母校である芝根小学校の下にもうまっていた古墳。身近に感じた私は、「玉村町立歴史資料館」でくわしく調べることにしました。

母校の下にうまっていた！

小泉大塚越3号古墳・・・

江戸時代の浅間山の噴火で押し寄せた泥流の下から発見された。芝根小学校を建てるときに発掘して、石室は校内に保存されている。

- 時期－6世紀後半
- 古墳の形－前方後円墳
- 大きさ－全長約46m
- 主な出土品－環頭大刀・冠
  金属製品・玉類
  人物埴輪・馬形埴輪
  円筒埴輪356本
- 平成元年(1989)、8年(1996)～10年(1998)に発掘
- 場所－芝根小学校(玉村町飯倉)

出土品のうち276点が県の重要文化財になっている！

← 空から見た小泉大塚越3号古墳

→ 古墳の北側ふき石と埴輪列

単鳳環頭大刀

← 環頭大刀・・・
県内からは約30点、玉村からは5点が出土！

大刀とは古墳時代を代表とする武器の一つ。

← 単鳳環頭大刀

刀の長さ約92cm！このデザインは日本でただ一つ！とても貴重な大刀！

輪っかの中には鳳凰が表現されている。鳳凰は伝説の動物で10円玉(平等院鳳凰堂)や1万円札にも描かれている。

冠の破片→

小泉大塚越3号古墳の石室出土品が群馬県重要文化財に指定されました。指定の理由は石室からの個性豊かな出土品、環頭大刀と冠が6世紀の群馬と朝鮮半島、近畿地方との交流を示すことによるものでした。

小泉大塚越3号古墳は玉村町南東部に位置しています。

小泉古墳群位置図

①小泉大塚越1~6・9・10号古墳
②小泉長塚1号古墳
③小泉大塚越7・8号古墳
④二本欅古墳

この周辺には前方後円墳である二本欅古墳など、かつて20を数える古墳が存在したことから小泉古墳群と呼ばれますが、現在目立つ墳丘はなく墓地として名残りを留める程度です。それが芝根小学校の建設に伴う平成元年の発掘調査によって江戸時代の泥流に覆われた小泉大塚越3号古墳が良好な姿をあらわし、全国の注目を浴びました。

発掘された小泉古墳群

小泉古墳群は現在のところ20基を数え、うち8基が調査されています。

1989年　小泉大塚越1~5号古墳を確認し、3号古墳をはじめ1~4号古墳を発掘調査。
1990~91年　小泉長塚1号古墳発掘調査。
1994年　小泉大塚越6・7・9号古墳発掘調査。
1997~98年　小泉大塚越7・8号古墳発掘調査。
2000年　小泉大塚越10号古墳発掘調査。

古墳群が所在する周辺一帯には、江戸時代天明3年(1783)の浅間山噴火に伴う泥流が利根川流域を襲って、古墳や当時の畑を埋めてしまいました。ただし、泥流堆積の影響で毎年5~6月頃、小麦の生育時期には芝根小学校北側の麦畑に古墳の模様が浮かびます。これはクロップマークと呼ばれるものです。泥流が堆積したところと古墳があったところに生育の違いができて、このように見えるのです。小泉周辺にはいまだ発見されていない古墳が存在する可能性を秘めています。

Date　　No.

小泉大塚越3号古墳（玉村町飯倉）

墳丘・外部施設

主軸方向をほぼ東西とし、後円部が西を向く前方後円墳です。

現存する部分では2段築造で、前方部西に造りだし部があります。規模は造りだし部から前方部墳丘裾部までは55m、造りだし部を除くと、墳丘裾部では46mです。前方部の最大幅は推定32m、後円部の直径は28mです。2段築造の上段は葺石下端で34.5m、前方部の幅は19m、後円部の直径は前方部の幅とほぼ同じ19mです。

葺石は2段築造の上段が良く残っていて、扁平な河原石を小口積みに積んでいます。根石には大きめの河原石を横積みに使っています。葺石は部分的に補修されているようであり、2面重なっている部分もありました。

周堀はほぼ全体をめぐっています。周堀の幅は古墳の西と南では5～6mあり、深さも1.1～1.2mとほぼ一様でした。東側の幅は北では5mですが、南にいくに従い広く、深くなっています。

後円部の西には古墳の主軸と軸を同一にした造りだし部が設けられています。第一段のテラスの幅は最大8mあり、葺石の根石から周堀に向かい緩やかに傾斜しています。

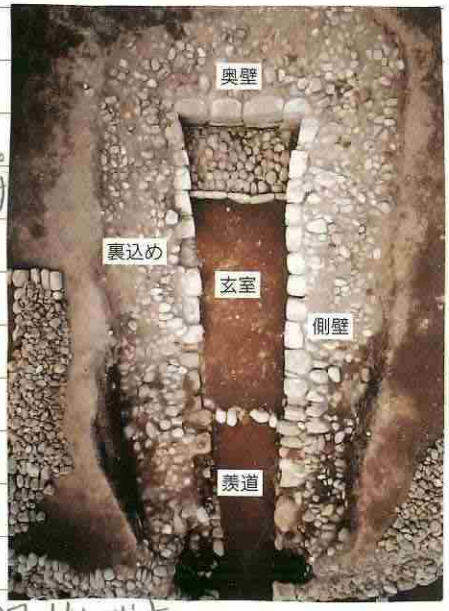
埴輪列は上段の葺石から後円部では2.5～3m離れた位置に整然と並んでいて、確認した埴輪の数は元の位置にあり、2体の馬と、馬子と考えられる人物埴輪が2体確認されました。いずれも埴輪列に沿って南を向いた状態で並んでいました。

←前方部前埴輪出土状態

Date　　No.

石室（埋葬施設）

石室の構造は横穴式両袖型石室です。→
残りはよくなく、上半が後世の破壊によって
側壁・奥壁の石は2段残っているだけでした。
比較的大ぶりの角閃石安山岩を使い、小口積み
にした背面を除く5面を削り加工しています。↓
奥壁に使われている石は
特に大型で、一つの原石を
二つ割りにして使っている
と考えられるほど中央寄り
まで削っているものもあり
ます。積み方は奥壁が上下左右
の線が通る格子目状、側壁は左右の線が通る互目状です。



底面は奥壁から1.1～1.2mの位置に5個の角閃石安山岩の削り石を並べた仕切
石があり、奥壁との間には扁平な河原石が敷かれていました。

石室の規模は、玄室幅は奥壁部で1.8mを測り、徐々に狭くなり玄門
部では1.5mを測ります。同様に羨道幅は玄門部で1.38m、羨門部で
1.15mと相似形をなすものです。羨道長：玄室長＝1：1.64をなします。

石室内はかなり破壊されており、原位置を留めている遺物は少ないもので
した。わずかに須恵器の壺類が原位置を留めていると考えられましたが↓
それらも倒立しているものもあり判然としません。直刀
の類は折れ曲がって側壁に押し付けられた状態
で出土しました。

石室は工事区域から外され、現状のまま保存され
ました。

石室の保存された芝根小地内には現在説明板が立てられています。

	書かれていたこと
母校である芝根小学校に行ってきました！	この古墳は、玉村町の東に分布する小泉古墳群に属します。利根川沿いに分布し、多くの古墳は、1783（天明3）年の浅間山の噴火に伴う軽石と泥流におおわれており、良好な保存状態で発見される特徴があります。

Date　　No.

出土遺物

金属製品、須恵器、土師器、玉類、円筒埴輪、形象埴輪（人物、馬形、器財形）が出土しました。

↓円筒埴輪　は胎土に結晶片岩が混入するものと角閃石安山岩が混入するものに分けることができます。前者の埴輪は藤岡地域で生産された可能性が高く、後者は利根川流域の生産が指摘されています。形象埴輪↓は

馬

盾持人

馬子

盾、鞍、家、人物（馬子など）、盾持人、馬があります。

また石室からは装身具、単鳳環頭大刀などの武器、刀子、環状鏡板付轡などの工具、馬具、土師器、須恵器などの副葬品が出土しました。これらの特徴から小泉大塚越3号古墳が造られたのは6世紀後半と考えられます。

とくに注目されるのは単鳳環頭大刀と冠です。

↓単鳳環頭大刀柄頭　の特徴は鳳凰の顎ひげもなく、口が閉じた状態であることが挙げられます。

（実物大）

冠の破片には葵形の破片や歩揺があり、なかでも中央に鋲の痕跡があるものは宝珠形を呈しており、冠の立ち飾りの先端にあたると考えられます。

たくさんのものが出土しました！

切子玉

ガラス玉
石製品

←鉄鏃　刀子

←鉾

その他にもたくさんのものが出土しています！

馬具（轡）

耳環

Date　　No.

小泉古墳群の環頭大刀について

・小泉大塚越3号古墳の環頭大刀

柄頭を良く見てみると、幅5.8cmの横長楕円形の環の中心に1羽の鳥の頭の部分が表現されています。この鳥は中国の想像上の鳥、鳳凰と考えられています。このようなデザインの刀は、環内に1羽(単体)の鳳凰が表現されていることから単鳳環頭大刀と呼ばれています。

鳳凰は顔を横に向けて、とがったくちばしを閉じています。頭頂の3つの冠毛(角)は長く弓なりに延び、環に接しています。全体的にはやや簡略気味ですが、それでも細かな部分まで丁寧に作ろうとしていることがわかります。

環頭大刀の意味するもの

日本国内の単龍・単鳳環頭大刀は、穴沢咏光さんと馬目順一さんの研究により、舶載品と、これをモデルにし、そのコピーを繰り返すことにより製作されたもので、柄頭の龍や鳳凰のデザインには複数の系譜があり、そのそれぞれが時間的な経過を追って退化し、個性を失い、規格化していくことが指摘されています。小泉大塚越3号古墳の単鳳環頭大刀は、千葉県鉢作古墳や山梨県寺の前3号古墳など全国に5例のそっくりさんがあることが知られています。そして、先に記した特徴から6世紀後半に日本国内で製作されたものと考えられます。

環頭大刀をはじめとした装飾付大刀は、6世紀中頃から後半にかけて、全国に向けて大王を中心とした政治支配体制の確立を推し進めつつあったヤマト政権やこれを支える周辺の有力大豪族のもとで管理あるいは製作され、各地の豪族や有力者に、お互いの結合関係を深めるための手段の一つとして配布されたものと考えられます。光輝く装飾付大刀を手に入れた地域の豪族や有力者は、これを権威の象徴の一つとしてとても大切にしたことでしょう。

群馬県内からは単龍・単鳳環頭大刀14点をはじめいろいろな種類の装飾付大刀やその装具の一部が約120点出土しています。この数は関東周辺の中では突出しています。そして、その群馬県の中でも玉村町域は装飾付大刀が数多く出土している地域の一つです。

玉村地域の有力古墳に埋葬された人々はいずれも何かしらの装飾付大刀をもっていた可能性が高いことが想像されます。

Date　　No.

小泉古墳群とその時代

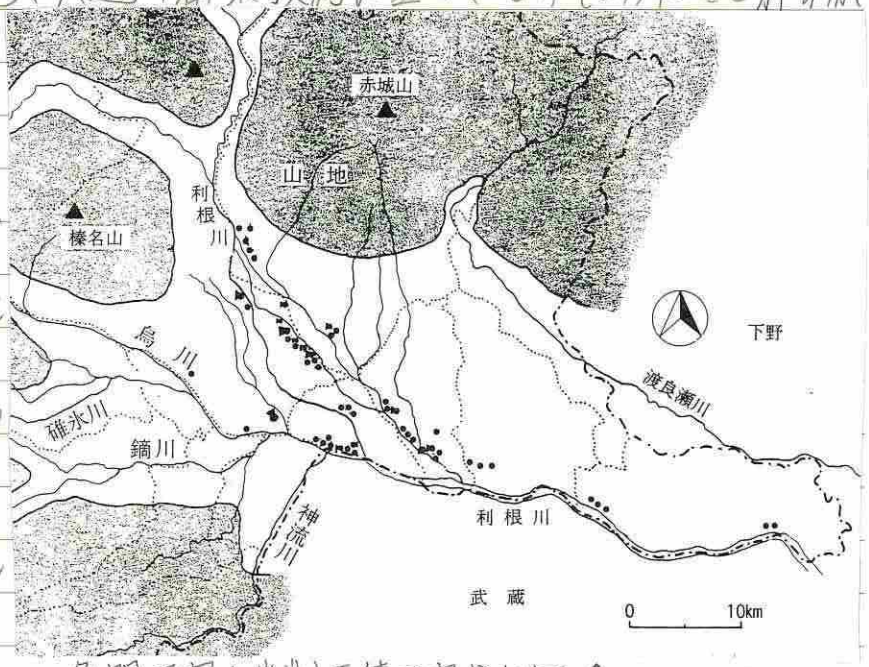
小泉大塚越3号古墳の特長としては、6つのキーワードがあるそうです。
① 6世紀後半の築造
② 墳丘長約50mの前方後円墳
③ 榛名山噴出の角閃石安山岩を削り加工した石材による横穴式石式
④ 充実した埴輪配列
⑤ 豪華で豊富な副葬品
⑥ 朝鮮半島系の遺物を副葬品の中に含む　です。

このことを基にして、小泉古墳群が築造された頃の上野地域の時代の背景には、どのような特徴があるのかを考えてみたいと思います。

角閃石安山使用の横穴式石室

6世紀中頃に榛名山が大噴火を起こしました。その火山軽石は、北東方向に飛んだことが知られており、この軽石層で厚く覆われた遺跡がたくさんあります。一方で噴火に伴い大小の角閃石安山岩が崩れ落ち、谷間を土石流となって流れ落ち、利根川等の河川を介して大量に流下したと考えられています。このことを機に、流域周辺一帯では、この石材を使った横穴式石室が造られるようになりました。この石室を「角安削石積石室」と呼称することにします。6世紀後半を中心とした前方後円墳に広く採用された角安削石積石室は、築造手法、構造的特徴等を共通にするものであり、地域的にも一定のまとまりがあることから、共通の構築技術に基づくものであったことがわかります。

主な特徴としては、石室を構成する羨道(外から中への通路)と玄室(遺体を埋葬する部屋)の長さを比較すると、羨道が大幅に短いこと、羨道から玄室にかけて床面が一段下がる框構造になっていることがあげられます。また壁石の構成が、いずれも小振りの石を積み上げる多石構成であり、玄室の平面形は、前幅より奥幅がまさり、しかも比較的細長い「羽子板形」を呈しています。



角閃石安山岩削石積石室分布図

Date　　No.

観音山古墳グループに目立つ朝鮮半島系遺物

小泉大塚越3号古墳の鉢巻式の金銅製冠、小泉長塚1号古墳の金銅製冠帽、単鳳環頭大刀については、朝鮮半島製ないし朝鮮半島の製品に極めて近いものであるとすることができます。

↑金銅製心葉形透彫杏葉

↑金銅製歩揺付飾金具

綿貫観音山古墳出土異形冑→

6世紀後半の日韓交流と関東地方

6世紀の朝鮮半島↓は

高句麗、百済、新羅の3国と伽耶地域の政治同盟の間で交流と争闘が複雑に絡み合って推移していた激動の時期だったとされています。その激動の渦のなかに倭(ヤマト政権の主導による政治的まとまり、九州から東北地方南部にかけての範囲に成立していた)もしっかりと組み込まれており、朝鮮半島の一挙手一投足の動きに直接的な影響を受けていたとされています。それゆえ、朝鮮半島(特に南部地域)と倭の間には活発な交流があったことが指摘されています。特に6世紀後半期になると、倭と友好的関係にあったとされている百済、伽耶の地域は、高句麗や徐々に有力化してきた新羅の攻勢の中に身を置くようになっていきました。倭も様々な形でこれらを支援するため、もちろん倭自体の利害関係も有利に導くため、たびたび多くの人々が軍事目的も含め、彼の地に渡っていったことが知られています。

ところで、この時期の関東地方が最も活発に古墳造営を展開し、豪華で豊富な副葬品を誇っていたことがしられています。早くには井上光貞さんが指摘しているところですが、この時期の関東地方はヤマト政権の軍事的基礎を担うようになってきたとされています。その新たな特別な関係が、この時期の古墳に反映されていることが考えられます。

ヤマト政権が朝鮮半島へ軍を送り込むとき、関東地方の有力豪族で積極的にこれに加わったものがあったのではないかと考えるところです。同じ意味で、行田市にある埼玉古墳群の6世紀後半の前方後円墳将軍山古墳からは、より朝鮮半島南部との交流を物語る副葬品の数々(馬冑、蛇行状鉄器、三累三葉環頭大刀、八角稜大型鈴)

が出土しており、興味が持たれるところです。

まとめ・感想

「古墳」と聞くと遠いもののように思いがちでしたが、意外と身近で、母校の下にも古墳がうまっていたことに気づきました。
「小泉大塚越3号古墳」をメインに調べてみて、たくさんの埴輪や冠、環頭大刀が出土していておどろきました。その頃の時代の玉村町、群馬県は、権力の強い豪族などがたくさんいたのかなと思いました。
同じもののように見えても、少しずつ違う、出土品の個性豊かさにもおどろきました。例えば、「単鳳環頭大刀」です。刀の長さ約42cmの日本でただ一つのデザインのものだと知りました。
調べているうちに、楽しくなってきて、深く考えさせられるものを細かく調べたりしました。昔の時代の玉村のイメージがよくできて、古墳について考える楽しさがよく分かり、とてもよかったです。

参考文献　玉村町歴史資料館　館内資料

芝根小学校地内　小泉大塚越3号古墳　説明板